

障害者の権利を守り、発達を保障するために

みんなのねがい

12
2025
No.722



特集

旅 さあ、いこう！

旅の魅力 高木菜那

連載

教員のはじめの一步

桜井佳子

- 1 人として 小林功治
- 2 【インタビュー】いま語りたい 心の窓を広げて 有原誠治
- 4 教員のはじめの一步 桜井佳子
- 6 心に種をまく 安田菜津紀
- 7 あなたに届けたいこの一冊 大河原妙子
- 8 この子と歩む 向井恵子
- 11 進め！ 推し活道 蛭川浩一郎

みんなの ねがい

2025年12月号

No.722

特集 旅行 さあ、いこう！

- 12 旅行の楽しみ あんなこと、こんなこと
- 14 旅の魅力 高木菜那
- 16 「広島に行けてよかった！」“チームおかもと”旅日記 岡本美知子
- 18 ただいま～誇らしげな子どもたちの声 丸目香耶
- 20 友だちと寝食を共にする宿泊行事の価値 松本将孝
- 22 二人で計画・実行した修学旅行 シャンティつくば



- 24 私ときょうだい 下田有輝
- 26 子どものミカタ 檀上貴史
- 28 ソーシャルワークってなんだろう？ 木全和巳
- 32 シリーズ 18歳 藤井佳樹
- 34 暮らしの場は今 田岡泰子
- 36 実践にいかす障害と医療 土岐篤史
- 38 ニュースナビ 心臓病の子どもを守る会生活実態アンケート 下堂前 亨
- 40 実践の魅力 飯田清久
- 43 全障研の支部ニュース、紹介します 樋口京子
- 44 みんなのひろば
- 46 息子と歩く 千葉桜 洋
- 47 BOOK／編集後記

裏表紙 おいしいひととき 福井真央

デザイン・イラスト

うじたなおき、勝倉大和、ちばかおり
永野徹子、日本印刷、橋野桃子、山内若菜

表紙のこぼ

和歌山の山あいの小さな農道で、学校帰りの児童たちに出会った。生徒数が少ないのだろうか、皆学年が違うようだが、いつもの帰り道を楽しそうに仲良く歩いてゆく。穏やかな冬の夕暮れと、いつの時代も変わらず無垢で汚れない子どもたち。

2025年もいろんなことがあった。

世界中で分断が生まれ、いまだ戦争で罪のない人々が犠牲になっている。何よりも重たくて尊いものは、ひとりの命であり、子どもの笑顔である。それを失ってまで進めることなんて絶対にありえない。

世界を救うのは、強大な権力者でも最先端のテクノロジーでもなく、たったひとつの小さな命を必死で守ろうとする無償の愛である。



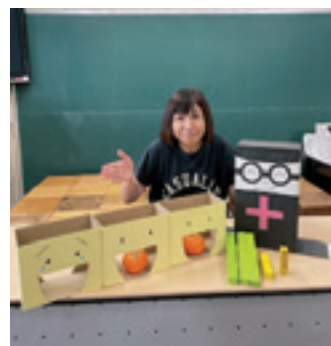
表紙=土佐和史

とさ かずふみ／写真家。1977年大阪府生まれ。全国各地に出向き、旅ゆく道で出会ったひとや風景を撮り続け作品発表を行っている。2018年に写真集出版レーベルBUFFALO PRESSを立ち上げる。写真集に、「SUNLIGHT MEMORIES」(CITYRAT press)「北関東」「路地裏に咲いた花」(いずれもBUFFALO PRESS)がある。

教員のはじめの一步

第9回

楽しい授業してますか？



全障研東京支部

桜井佳子

さくらい よしこ／公立小学校
教員。1989年より肢体不自由
特別支援学級で11年間、その
後26年間知的障害特別支援学
級を担任

喜びを実感できる授業を

私が初めて担任したのは、最重度といわれる肢体不自由のはるおくんたちでした。教師として彼らに接しながら、私はやりがいを見つけられずにいました。そんなある日、おむつを替えるとはるおくんが笑ったのです。はるおくんの心に触れたようでドキッとし、それを知ろうとしていない自分を不甲斐なく感じました。先輩たちはそんな私を責めず、「なぜ、なにを、なんのために教えるかを考え、実践をつくろう」と教えてくれました。「人を求めてやまない笑顔の獲得を。生きる喜びを実感できる授業を」話し合いを重ね工夫した授業で、はるおくんが「先生楽しいよ」というふうに笑ってくれた時の感動は、今も忘れられません。

教材を学びの相棒に

その後、知的障害学級で出会ったひろくんは、校内を走り回り頻繁に泣き叫ぶ小学1年生でした。ひろくんは空想の世界が大好きですが、人にはあまり興味がなく、授業にはほとんど参加しません。そんな彼が学ぶことに興味をもったきっかけは、タイトルの「くるるん」でした。

イラスト 勝倉大和

旅 さあ、いこう！

「来週〇〇に行くんだ！」「□□食べるの楽しみ～！」

お泊まりや宿泊学習、修学旅行、旅行などには、出かけるまでの楽しみも含めて、特別のわくわく感がありますよね。

目的地を決めたり、移動手段を選んだり、日程を考えるのは楽しい半面、いろいろな子どもたちや仲間たちの様子、安全面、予算など、楽しい旅行にするために、さまざまなことを考えるのは一苦労。それでも、それを上回る魅力が旅行にはあると思います。

大人になるにつれて、自分たちで行き先を考えて旅行するチャレンジもあるかもしれません。

そんな旅の醍醐味を、さまざまな実践や、旅行記などを通して、一緒に味わってみませんか。

さあ、あなたも旅へつながる小さな一歩を・・・

旅の魅力は？

計画を立てるとき	ご当地グルメ	発見・体験	上げ膳据え膳
一緒に行く人思い出がくれる	自然や街の雰囲気を感じる	人との出会い	
昆虫との出会い	リフレッシュ	人情	ワクワク
		気分転換	温泉
思いがけないトラブル（電車の遅れなど）を切り抜けた達成感			
すてきな風景	特別な時間	地酒との出会い	登頂した達成感
友だちや先生との特別な時間		乗り鉄	非日常

必須アイテムは？

お気に入りの本	折りたたみ傘	翌朝の準備	時刻表	しおり
ちっちゃいナイフ（食事を細かく切ったりする）		お尻拭き（何でも拭ける）		
スマホとモバイルバッテリー	ランニングシューズ	ヘルプマーク		
薬（抗不安薬や頓服薬）		耳栓やイヤーマフ		

旅行で困ったこと・腹がたったことは？



ホテルの予約の段階で「車椅子」と言っただけで断られ、友人が電話をかけ直して交渉してくれた

車椅子ユーザーなので、使えるお風呂やトイレがなかなかないこと。調べるにも調べることで体むずかしい



段差の多さ、案内板の不備

交通費・宿泊費が高い

飛行機や電車の遅滞のアクセシビリティ

食事（ペースト食などの形状やカロリー制限など）

おすすめスポット

穴道湖の夕日

安曇野・ちひろ美術館最高乗鞍青年の家

弟子堀・満天の星

岡山県瀬戸内市牛窓のオリーブ園や牛窓神社を歩く。海が見えると自然と息が深くなります

福島発の飯坂線を何度か利用しましたが、沿線に小さな楽しみがあり、青年サークルのみんなが楽しめました

スカイツリーのフードコート優先シートあり！すごい配慮してくれました！

松江（国宝の松江城、抹茶と和菓子和そば、出雲大社、玉造温泉、小泉八雲等いろいろ楽しめます。ゆったりと過ごしましょう）

白浜アドベンチャーワールド。動物と触れあえる

よさこい祭りで有名な高知



これから行ってみたいところは？

北海道 軽井沢 東京ディズニーリゾート USJ 富士山 山口 ローカル線の旅
滋賀県側の山々 金沢 石垣島 道後温泉 「幸せの黄色いハンカチ」のロケ地
北欧ツアー バリ島 ポルトガル トルコ ドイツ カナダ オーストラリア

「広島に行けてよかった！」 “チームおかもと”旅日記

神奈川支部 岡本美知子



筆者真ん中、左が真理さんはAさん。いざ 品川駅出発

娘真理を初めて全障研大会に連れて行ったのは、1984年の第18回広島大会でした。当時私が勤務していた養護学校の教員や家族のみなさん十数人で参加し、小6だった娘は私の母と平和記念資料館に行き、「見るのが怖かった」体験をしました。

2002年には地元の横浜で全国大会が開かれ、30歳になる娘は自分のことをレポートに書いて「なかまの分科会」に参加するとうち初めての体験をしました。それ以来2019年の長野大会まで、毎年夏は全障研大会に参加して、開催地の見学やおいしいものを食べるのが我が家の恒例行事になりました。

ところが、2020年はコロナ禍と娘の大病が重なり、80日間の入院を経て家に戻った娘は、旅行や外出は「もはやこれまで！ 無理！」と諦めざるをえない状態でした。

昨年久しぶりに対面で開催された奈良大会の時には、退院直後からリハビリやマッサージを



岩手支部の濱田さんと涙の再会



“チームおかもと”で乾杯



友人Oさんが広島駅でお出迎え



大会常連の神奈川支部のみなさんと



感動の全体会に参加



広島国際会議場にて

ソーシャルワークって なんだろう？

一度しかない生活を支え、人生に寄り添い、

かけがえのない生命を共に輝かせるために

第9回

ソーシャルワークと 「エンパワメントと解放」 の理念



日本福祉大学

木全和巳

きまた かすみ／日本福祉大学社会福祉学部。児童養護施設、知的障害児施設等を経て現職。研究テーマはソーシャルワーク、セクシュアリティ、権利保障など。著書に『〈しょうがい〉と〈セクシュアリティ〉の相談と支援』（クリエイツかもがわ）など

性的虐待を受けたひろゆきさんの出会い

エンパワメントという言葉に出会い、その大切さに深く納得したのは、1997年の頃です。当時、児童養護施設から転勤をして、旧知的障害児施設で働いていました。「中軽度の女子棟」が主な職場でした。ここでも、知的な発達の違いや自閉スペクトラム症がありつつ、親たちによる虐待や生活の問題があつて、親たちといっしょに暮らすこともできない子どもたちの生活の支援をしていました。

この職場で、義父から性暴力を受け、入所してきた小学校5年生のひろ子さん（仮名）に出会います。わざと男の子の前で下着を脱ぐ、母親への強い思いのために保育士との関わりの中で過度に甘える、友人とのささいなトラブルや食事場面など、日常生活での注意などですぐに興奮してしまうことがあります。その際、よだれを垂らしたり、失禁があつたりします。他の子どもたちとの関係も悪く、物を勝手に借りて返さない、勝手に部屋に入り物を盗る、身体的欠陥や親の悪口など傷つくことを平気で言うなど、日常的にトラブルが絶えませんでした。ローテーション勤務である職員との関係も複雑でした。担当職員にはかわいがられようとして、よい子に振る舞おうとします。しかし些細な日常の注意で、いつも忍耐が切れて爆発してしまいます。次々と愛着対象の職員を変えていくのですが、少し人間関係が深まりをみせると自分からわざと壊すような行動に出ます。男性職員である私には性的なこびを売ることもありました。一対一でゆっくり

話をする時間をつくろうと通学の送り迎えをすると、その時には「自分には頭が良くてスタイルがいいすてきな双子の妹がいる……」という話をまじめにします。学校でも他の子どもたちとのけんか、教師とのいさかいなどトラブルが絶えません。正月の帰省時には、他の子どもでんかん発作のまねをしてヒステリー症状となり、歩けなくなってしまうこともあります。思春期の前期と重なり、抑うつ、親密な人間関係、性化行動、解離など性的虐待の後遺症といわれる状況が次々と出てきました。

ケア的なとりくみと性と生の学習会

ひろ子さんの行動を理解しようと、職員集団で性的虐待についての学習会から始めました。行動の理解を中心とした学習です。他の子どもを傷つける最低限の禁止事項以外は、行動を受けとめ、結果については本人に返して、共に考える姿勢で臨みます。子どもたちとのトラブルは子どもたちの中で解決するように援助しました。このように本人を中心とした生活が始まりました。しかし、「どうしてひろ子さんだけ許されるのか？」といった他の子どもたちからの批判も出てきました。生活施設の中での治療的などりくみと生活指導的なとりくみとの統一が実践的な課題として浮かび上がってきました。職員自身も、これまでの生い立ちからの人間関係を振り返りつつ、自分の感情の動きをどう理解するのかという、自分と向き合う必要に迫られました。並行して、児童相談所の心理士によるセラピー、弁護士による養父との離縁支援、

強いうつと軽度の知的な遅れがある母親への支援なども関係機関と協力しながら行いました。

ひろ子さん個人へのケアと平行して、比較的知的発達の遅れが軽い、思春期を迎えつつあった子どもたちを集めて、性と生の学習会を定期的に行うという実践にもとりくみしました。男女性器の名称から仕組み、性交、妊娠、出産と学習を進めていきました。続いて、「しょうがい」についても学習を行いました。①知識として一度にたくさんのことを教えない、②すぐの効果を期待しない、③「問題行動」が起こった時に、前に教えたでしように式の叱り方をしない、④職員の価値観を押しつけない、⑤子どもたちの疑問にはいいねいに答える、などに配慮をしました。ひろ子さんがいるため、フラッシュバックには細心の注意を払いました。ひろ子さんは、はじめは知ったかぶり、他の子どもたちの意見も聞かずにさえずってばかりいました。しかし学習会を積み重ねると、次第に他の子どもたちの発言にも耳を傾けるようになっていきました。

印象に残っているのは、大きな子宮と産道を用意して、赤ちゃんになって生まれてくる体験学習をした時のことです。ひろ子さんは、みんなで呼びかけても「ここがいい」と子宮から出てこようとしません。担当の保育士さんや仲間たちの励ましでようやく自分から出てくることができました。子どもたちは「ひろ子さんがんばれ」「もう少し」と声をかけてくれました。そして、出てきたひろ子さんのおへそと子宮とつながっているへその緒を私がはさみで切ったことを思い出



ニュースナビ

2025年12月号

News Navi

「生活実態アンケート2023」調査結果から 見えてきた患者・家族の課題

心臓病児者とその家族のための社会保障制度は十分に機能しているのか、全国心臓病の子どもを守る会は会員3300世帯を対象に、2023年5月に生活実態調査を行いました。2018年に同様のアンケートを行っており、5年前からの変化も含めて集計、分析を行いました。581人から回答があり、そのうち小児（18歳未満）276人、成人305人（20歳以上）でした。大人になった患者の割合が会員でも多くなっていることが反映されています。

医療的ケアと重複障害の増加と学校生活

重症心疾患への治療が進歩してきていることを反映して、「単心室」「左心低形成」など、少し前までは生まれてすぐに亡くなっていたような病児からの回答が増えていました。そのため、在宅酸素（医療的ケア）を利用している人が前回に比べるとたいへん多くなっています。また、心臓病のほかに知的な障害や発達の問題をかかえている病児も増えており、通常学級への就学を希望しても、介助職員や看護職員を配置できないといったことから、特別支援学級、特別支援学校へ進学している心臓病児が増えています。また、通学時の送り迎えや学校生活でのさまざまな場面で、病児本人や保護者の同意なく親の付き添いを求められることが多くなっていることもわかりました（図）。

遠隔地での治療で増えている医療費の負担

先天性心疾患患者はおおむね3歳ぐらゐまでは手術を行えるようになりましたが、生涯にわたり治療や経過観察は必要です。アンケート結果では、9割以上が通院を継続していて、多くが1～3ヵ月に1回の通院をしています。また、専門医療機関が限られているために、県外と地元の複数施設に通院をしている人は小児で4人に1人以上、成人は3人に1人もいました。

そのため、遠隔地の医療機関にかかるための交通費や付き添いの負担が大きくなっています。また、医療費については自治体の福祉医療（子ども医療、重度障害者医療費助成）の利用が多く、地域格差や一時的な立て替えの負担が大きくなっています。公的助成を充実させて医療費の負担を軽減することが重要な課題です。

手当・障害年金の認定基準に問題あり

身体障害者手帳を取得している患者は、0～3歳を除いては70%を超えていました。等級は、学齢期になると1級を取得している割合が極端に少なくなっているのが特徴的でした。また、知的障害を重複している子どもが増えており、15%が療育手帳を取得していました。特別児童扶養手当（特児）は、40%が受給しており、そのうち60%が2級でした。大人にな



あんず班の焼き菓子をご紹介します
 東京 あさやけ作業所 福井真央
 あさやけ作業所あんず班では
 マフィンやシフォンケーキ、マド
 レースを中心に焼き菓子を製造
 しています。商品によって必要
 な道具や材料が変化するのです
 が、「今日は〇〇を作ります」と
 声がかかると、一斉にそれぞれの
 の作業にとりかかります。得意
 なこと、苦手なことは人それぞ
 れ異なりますが、あんず班のみ
 なさんを見ると、一人ひと
 りが得意な作業で一つのお菓子
 を作りあげているのだと感じ
 ます。これからの時期は、クリ
 スマスに向けてシュトーレンを
 作ります。ラム酒は使用せず、
 チョコチップが入っているた
 め、多くの方に楽しんでいただ
 ける商品になっているかなと思
 います。ぜひご賞味ください。

